弓削通信 アカニックス

2017.9.15 №87（通巻213）Since 1991.6

発行者　平山和昭　☎&Fax 0897-77-3072
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生318-2
メール　yugeru3@ray.ocn.ne.jp
フェイスブック　http://www.facebook.com/kazuaki.hirayama

働き方改革の目指すべきは

「制度」と「個人の事情に合わせられるしなやかさ」の両立

●わが町の行く末

すでに何度か書いたし、しばしば別の場でも論議されている移住・定住促進。それは町の人口減に歯止めが利かず、このまま推移すれば、いずれ町として存続できなくなる恐怖から発しています。

ここで言う「町」とは、都道府県が条例で定める「町」としての要件（人口、連坦戸数、必要な官公署等、産業別就業人口割合等）を備えているということで、愛媛県の定める「町」の人口要件は5000人です。

ちなみに「村」の法的な要件は特段の定めはなく、よって「町」の要件を満たしていなければ自動的に村という事になります。

日本国はすでに人口減の状態に突入していて、我が町のような末端自治体から国レベルまで、規模の違いこそあれ図式は同じ。

平成28年3月に作られた「上島町第2次総合計画」では、平成37年（2025）の人口を5950人と予測、町の目標人口を6100人としています。しかし、実は余程のことがないと目標達成は難しいのではないでしょうか。

♥ワンモア・ベイビー

「ワンモア・ベイビー」、この標語をテレビで視聴したことがある方も多いと思います。

いまオランダの「働き方改革」話題になっているようです。30年前、世界一女性の社会進出が遅れていたオランダ。なんと2016年には、女性の就職率が7割を越えたオランダ。

そのオランダで長い試行錯誤の末にたどり着いた社会変革が「世界一子どもが幸せな国」です。粘り強い、目標を見失わない施策の結果でしょう。

オランダの働き方改革は、一口に言えば国民が様々な働き方を、働く者の都合に合わせ、自由に選択でき、安心して子育てできる社会環境を作ったことです。たとえば出産・育児を働く女性の足かせにはしない。女性が安心して就職できる環境。男女を問わず同一労働には同一賃金、・・・そうなれば、もう一人、欲しかった子どもを生み育てよう、となるのも自然です。

老若男女、まずは効率よく働くことが前提にあり、働き方（労働形態）は個人の都合にあわせて選択でき、企業等もそれを受け入れ、労働形態による賃金格差を縮め、男女を問わず、同一労働同一賃金の実現。

■取り組むべきは何か

人口減に悩む末端自治体が人口維持を図ろうとすれば、それは「日本一子どもが幸せな町」になるほか無いと思えるのですが、ではオランダ国が総掛かりで実現してきたことを、直ちに日本の自治体に横流しで実現できる筈もないでしょう。

しかしその精神、考え方を取り入れる事はできるはずです。

いたづらに観光客誘致やイベントに目を向けたり、経済的効果ばかり追うのではなく、根っこである地域の豊かさを活かした、他所に例のない子育て環境をつくる。それを情報発信する、というようなことです。

移住促進や子育て支援と言っても、政府の決めた枠組みでしか動けないなら、成果は限定的。すでに経験済みです。

わが町が、町として生き残るための人口減対策は、くさび形陣形で中央突破するしかありません。町の総合計画の目標も、幾つもある網羅的表現は改め、むしろ、これを実行すれば「日本一子どもが幸せな町」になれる目標を特に決め、まず何をせねばならないかを考え、果敢に実行する。

■子どもファーストです

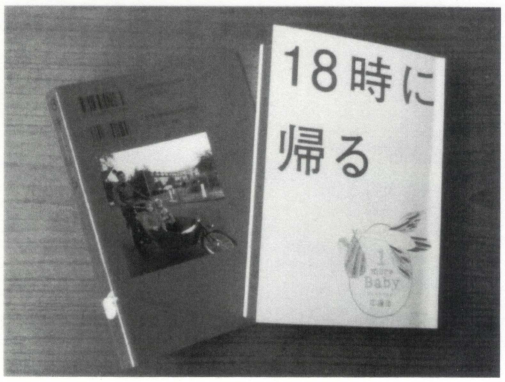
合併以来掲げてきた「世界に誇れる品格あるふるさと」など生ぬるく曖昧なキャッチフレーズはゴミ箱に捨てましょう。

「日本一子どもが幸せな町」を実現させればそれはひとりでに付いてくる。

「日本一子どもが幸せな町」を実現すれば、移住者は必ず増えます。そのためにこそ、安心して子育てと就職（仕事）が両立できる自治体をつくりたいのですから・・・。

わが町の未来を考えたとき、そこに住む子育て世代がしっかり意見を言い、動く。行政が「子どもファースト」の旗印を鮮明にして動くこと。それが何より大事なのではないでしょうか。

社員へ歩み寄る努力をするオランダ企業



【写真について】
●『18時に帰る』
「世界一子どもが幸せな国」
-オランダの家族から学ぶ幸せせになる働き方-
秋山開・著
2017年6月1日　初版
発行所　プレジデント社
一般財団法人「1more Baby応援団」が、働き方改革先進国オランダを現地調査して報告した本。
※政治は何の為にあるのか。改めて考えたい。

三人目の壁を乗り越える

現代アート、はじめます。

●草間彌生からさわひらきまで

2017
9/16（土）～10/22（日）

尾道市立美術館
〒722-0033 尾道市土堂1丁目12-29 TEL.0848-23-2281
詳しくは（0848-23-2281）

きどぐち 八六

青木喜代子

高温注意報発令中！

こんな情報が流れるなんて、半世紀前は思ってもなかった。発令中でも配達はある。タオルを首に巻き出発。しばらくすると車のラジオから、あの頃の懐かしい曲が流れてきた。

あれは高一の夏、生徒総会を抜け、紺のスツール水着を持ち海水浴へ。裏門からバスで港へ、弓削行きの船に乗る頃はサボった事は忘れ、ハイテンションの私達。キャーキャー騒ぎながら海水浴場に着くと「あれ？、人がいない・・・。貸し切り？」

初めて赤潮を見た。

泳げないならボートに乗ろうと、三艘くらいで沖へ。すると友達の一艘が沖へ、沖へ。海の家のおっちゃんに救助されるはめに。

すっかりテンションは下がり、早いけど帰る事になり、来た露地を帰っていると。「よ～、お姉ちゃん達何処いくの？」と、言われたか定かじゃないけど、結果的にからまれました。制服姿の私達はどうすることもできず、ひとかたまりになってだまりこんでいた。するとむこうから部活中の商船のラガーマンがエッホ、エッホ走ってきた。

私達の様子をひと目見てお兄ちゃんとの間に入り、私達に「早く行ってください。」と。かっこ良かった。命の恩人です。

サボリ初体験はまさに命がけの連続で、天罰が下ったと悟った私は、以後品行方正の女子高生でした。

平和だったからこその半世紀前の青春時代のひとコマ。戦争に青春時代をとられた父や母には、笑える思い出はあるんだろうか・・・。

隣国からミサイルが飛び、核実験と続き、戦争の二文字が身近に感じた暑い夏でした。

（因島在住）

弓削通信 フォニックス
2017.9.15 №87（通巻213）B

海員組合を創った男・探訪

濱田國太郎を顕彰する会（参加自由）
（毎月25日13時～。生名開発センター2Fで開催）
〈37〉

観光案内板3枚

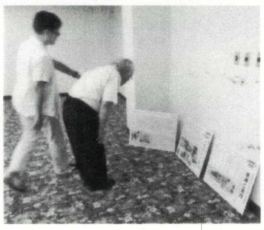
8月号（36）で紹介した三秀園の記念碑の解読が終わり、このたび現地に関係案内板を3枚製作しました。

一枚は三秀園内の記念碑そばに設置します。目視では判読困難な記念碑の読み下しにルビをふり、だれでも読め、理解出来る体裁にしました。

もう一枚は、三秀園そのものの案内板です。通りすがりに見え易やすいところに設置します。三秀園、麻生イト、國太郎の関係がわかるようにしましたので、やや読む部分が多いです。残るひとつは、國太郎公園（厳島）の、國太郎像への登り口に移設した、庭師・村上賢蔵さんに関わる歌碑（石碑）に設置しました。

歌碑の読みくだしと解釈を記し、理解の助けとしました。

三秀園の記念石碑の解読は、岡山県瀬戸内市牛窓在住の郷土史研究者・金谷芳寛さん（村上貢さんのお弟子さん）に、その殆どを解読していただき、生名在住の濱田善仁さんにも協力していただきました。



國太郎公園の歌碑についても、判読しづらい文字がいくつかあり、町内の知り合いの習字の先生方、國太郎ゆかりの神戸雷声寺住職・吉井師のご紹介で、龍谷大学客員教授の小田剛さん、先の金谷芳寛さん、そして濱田善仁さんにそれぞれ判読をお願いし、最終的に濱田善仁さんによる解説をふくめて案内板にしつらえました。お世話になった各先生方には、この場を借り御礼申しあげます。

読者の皆様方には、散歩の折にでも是非ご高覧頂けたらと思います。

大西幸江のMyノート

2017.9.15発行　発行者：大西幸江
〒7942410越智郡上島町岩城4780
TEL/FAX　0897-72-9035
メール　yukie.onishi@nifty.com

アイディアと発想でできることから町づくり

IT（情報技術）の活用という言葉をよく聞く。では、情報技術ってなに。

「**情報技術とは**」とネットで検索してみると「**コンピュータやネットワークといった情報処理関連の技術の総称である**」わかったような、わからないような解説。だが、このITをどこの組織もこぞって取り入れる。今やパソコンを所有していない組織は皆無ではないのだろうかと思えるほど普及しているし、ネットワーク技術の進歩でグループウェアなどを活用して、多かれ少なかれ組織内の調整を行っていると聞く。

上島町は離島で条件の悪い自治体だけれども、ありがたいことに光回線が使用できる。今回は、この光回線を使って何ができるかを考えてみる。

まずは、普通にインターネットができる。光回線なのでストレスはほとんどない。Wi－Fiも普通に使える。町はフリースポットも用意してくれていて、主要な公共施設ではスマホやパソコンで接続できる。

ネット利用で実現できそうなこ

○光回線を使った会議

離島で構成された上島町なので、会議をするにしても移動時間と費用が掛かる。それを軽減するために、ネット会議はどうだろうか。技術的には問題なくできるはずである。

○ネット診療

医師不足で困っている状況打開のために、ネット診療という手段もある。確かに直接診察するのに勝るものはないけれども、様子を確認する程度なら使えそうである。

○ネットを利用した学習

今も学校では様々な形でITを授業に取り入れているが、もう一歩進んで上島町で一番教え方が上手な先生に授業をしてもらってネット配信。そうすると、学校ごとの格差が少なくなるかもしれない。他にも、補習を一斉に行うことも少ない人員でできるし、教員免許がなくても学習補助はできる。先生の負担も少なくなるのではと思う。学校の統廃合も違った見方ができるかもしれない。

○買い物弱者の支援

インターネットを通じてほしいものを地元のお店に注文して配達してもらえるようになれば、地元で経済を回す上でも活用できるのではないかと思う。

○図書室の本の情報

今は他の地区にどんな本があるのかわからない。だが、ネットを活用してリアルタイムに本の貸し出し情報や蔵書情報をみることができれば、もっと図書の利用もスムーズで利用しやすくなると思うし、各島で同じ本を購入してもらわなくてもよくなり、一冊でも違う本が購入できると思う。

ちょっと考えただけでも思いつくものはあるし、実際にできることもあるだろうし、費用対効果も見込めるかもしれない。せっかくあるものだから、もっと工夫して活用することを考えていかなければならないと思う。

道具を使うのは人

人がアイディアを出して、工夫して、利用しないと決して費用対効果は生まれない。光回線だけでなく、町が抱える多くの公共施設も同じ。同じ費用をかけるなら、維持するだけでなくアイディアと工夫で自分たちが困っていることを解決できるように考えてみると案外とすんなり問題が解決できるかもしれない。

クロモジ

最近出版された町内在住の作家さんによる本の紹介です。

★詩集「青い川」　川田長慶　2016年11月1日刊。RAP選書。￥2,700(Amazon)。◆川田長慶さんは1946年生まれ。高知県大川村出身。現在弓削島在住。著書多数。

★詩画集「花のうた」　夏坂周司　2017年5月21日刊。郁朋社。￥1,080(Amazon)。◆夏坂周司さんは1942年生まれ。現在岩城島在住。著書多数。

ふたたびサウンド・ハウス

「コーラス隊」

村上清美

コーラス教室を始めた。二チームある。五十代コース。七十～八十代コース。

私ごとだが夫の両親を見送って三年になる。確かに三十年余、家族であったのだ。日々の供養、墓参。時代は進歩するし、どんどん変わっていく。その中で、高齢化、家族葬、いろんなことが様変わりしている。

人の心はどうだろう。私は、未熟だったゆえ、夫の両親に対しては、いい嫁とは言えなかった。なので懺悔の気持ちもあるが、両親の背中を見せてもらった生き様と、自分の持つ新しい生き方を見つけていこうと思っている。ただ、義理の関係というのは、お互いがお互いのために生まれてきてはいない、という事実がある。その時は嫌だと思った感情も、相手の立場や心情を理解した時、なあに、私の心がこどもだっただけなのだ。そういう思いを持った同志が、なんと近くにいたのだ。

「だから今、とっても幸せです。こうやってコーラスに通えて、もう嬉しくってたまりません」と後輩に言われると、私もまんざらではない。

みんな人生いろいろあったけど、これからは自分の人生を生きるのだ！　さまざまな思いを歌に託して、今日も歌うコーラス隊。

（因島在住）